やまざき

学校だより11月号
世田谷　杜の学び舎
世田谷区立山崎小学校
校長　　小池　慎一
令和8年10月30日

⇐山崎小ホームページはこちらから　http://school.setagaya.ed.jp/yaki

褒めることのすすめ

本澤　克洋

先日の学校公開、そしてスポーツ祭り「秋」短距離走・リレー大会には、多くの保護者の皆さんに参観をしていただき、ありがとうございました。参観する大人がいると、子どもたちは、いつもより張り切っているように見えました。そういえば、小学生の本澤少年も授業参観では、人一倍張り切って発言する子どもでした。子どもが参観の時に、張り切るのは今も昔も変わらないようです。ではなぜ子どもは、張り切るのでしょうか。私が思うに「褒めてもらいたい」「認めてもらいたい」気持ちがあるからだと思います。(H 少年はそうでした。)

今から２０数年前、まだ教員になりたての頃、個人面談でどんな話をしようか悩んだときに、当時お世話になっていた主事さんに「自分の子どもをどんな時に褒めていますかってきいてごらん」とアドバイスを受けたことがあります。今でも心に強く残っている言葉です。なぜなら、保護者に聞く前に自分の指導を見直すことにつながったからです。アドバイスを受けて以来、私は可能な限り子どもを褒めることを意識するようになり、今でも子どもたちを褒め続けています。

アメリカの教育心理学者 R・ローゼンタールが行った実験では、教師に褒められて期待された生徒と、そうでない生徒では成績の伸びに明らかな違いが見られるという結果がでました。また、相手を褒める側の人については、意識して褒めるという行動そのものが脳の大脳新皮質の前頭前野をフルに働かせているため脳が活性化するということが分かっています。確かに、褒められて悪い気分になる人はいないし、褒めた相手が喜んでくれるのは、褒めた自分もうれしい気持ちになりますね。

さて、改めて皆さんに質問します。「最近、我が子をどんな時に褒めましたか？」
子どもたちは、大人から褒められたり、認められたりすることで、自信をもち、次の挑戦への意欲を高めていきます。大きな成果だけでなく、「あいさつができた」「最後まで頑張った」「友達に優しくできた」など、日々の小さな成長にもぜひ目を向けていただければと思います。学校でも、子どもたちのよさや頑張りを見つけ、褒めて、認めることを大切にしていきます。ご家庭と学校が同じ目線で子どもたちの成長を見守り、一人一人が自信をもって歩んでいけるよう、これからも力を合わせて子どもたちを支えていきましょう。

11月「人格の完成を目指して」のテーマは『　フェア　』です。

「いよいよ学芸会へ！みんなで創る感動の舞台」　学芸会委員長　杉山純子

スポーツ祭り「秋」を全力で駆け抜けた子どもたちが、次に向かう大きな目標――
それが１１月２７日（金）・２８日（土）に行われる学芸会です。

普段とは違う役になりきり、声の出し方や表情、動きを工夫しながら自分を表現することは、子どもたちにとって大きなワクワクであり挑戦です。台詞一つ、動き一つにこだわり、友達と「どうすればもっとよくなるかな？」とアイデアを出し合いながら劇を深めていく時間こそが、子どもたちの豊かな感性と絆を大きく育んでくれます。

教員も夏から準備を進めてきた台本をもとに、子どもたち一人ひとりのキラリと光る個性が輝くよう、思いを込めて指導にあたっていきます。衣装などのご準備では保護者の皆様にご協力いただく場面もございますが、ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。ご家庭でも「今日の練習はどうだった？」などと声をかけていただき、本番に向けた頑張りを温かく応援していただけますと幸いです。



令和６年度「学芸会」の様子